

第2回瑞浪市道の駅検討委員会

<議事要旨>

日時：令和2年11月16日（月）午前9時～

場所：釜戸コミュニティーセンター

出席委員：東恵理子、足立美樹、足立亘、伊藤加代子、伊藤太一、伊藤雅敏、落合宏之、
小木曾実希、出村嘉史、橋本孝晴、原田守啓、平尾巖、水野吉衛、溝口純司
（五十音順、敬称略）

アドバイザー：岐阜県東濃県事務所長 尾崎浩之、岐阜県多治見土木事務所長 加藤一幸
（敬称略）

オブザーバー：国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所 計画課長 野村博
（敬称略）

事務局：瑞浪市 建設部 都市計画課

■会議概要

（※議事要旨の発言者は、学識経験者の原田会長・出村委員のみ表示）

1. 開会

2. 会長あいさつ

会長 この委員会は、基本計画をまとめるために、たくさんの方のことを議論しなければいけない。前回の会議以降の地元組織の取り組みや、具体的にどのような施設・機能を持たせるか、地域の資源をどう生かすか、新しくできる道路とのアクセスをどうするかなど具体的で専門的な議論が出ると思うが、この場で議論をするために事務局が資料を用意しているので、忌憚なく話をしていきたい。

3. 議事

会長 今回道路や川など、公共施設が関わってくる議論になる。オブザーバーやアドバイザーの意見を聞きながら進めていこうと思う。

（1）地元組織の活動について

・事務局より資料2の説明を行った。

会長 かまどベースで議論していただいているのは、非常に特徴的で、道の駅を計画している場所が魅力的な場所であり、そこをどう活用していくのか、周辺地域

に魅力をどう波及させていくかというモチベーションを持って活動してもらっている。

出村委員 かまどベースは釜戸区長会の下部組織として、公の組織として活動をしている。今後創造的なコンテンツが生み出されることを期待している。それがひとつひとつ自覚を持って経営していけるような状態になると良いと思っている。10月31日のかまどベース会議に出席したが、そこではやりたい人が「部活」を作ってゆるい形でいろんなことを始めていくことを話し合った。それがうまくフローに乗っていければ様々な「部活」が成長していくと思う。それを見守りながら進めていく形ができていたのでとても良いと思っている。近年できている道の駅は、北海道に多いが、寒地土木研究所が指導しながらつくっている道の駅は、5年、10年かけてコンテンツ作りをしている。お店を誰がやるのか、あらかじめ決まっている状態で、そこを支える話し合いをして、建物ができるという流れである。これが、今作っている道の駅の一番新しい考え方だと国土交通省も言っている。釜戸の道の駅も先進的な部類に入るのはないかと思っている。

委員 私も若者たちと一緒に意見交換をさせていただいている。若者たちと話をした際には、「やりたいことはまずやってみよう、それぞれにやりたいことがあれば、任せればよい。仲間を集めてまずやってみよう」と発言が出ていた。いいことだと思う。若い人たちにはよく意見を出していただいている。一緒に意見を出しながら、若者たちの考えを守りたいと思っている。期待している。

委員 ソフト作りが肝になり、他の道の駅と差別化にもつながる。現段階では、ハードづくりの方に予算がついている。ソフト作りについても、地方創生推進交付金などの予算がつけば、コンセプトに沿ったコンテンツを試して市場調査ができるのではないかと。プロダクトアウトで始めるのか、マーケットインで始めるのかはあるが、このコンテンツが誰に響くのか、近隣県の1万人にネット調査をするなど、ソフト面に重きを置くのであれば、来年度に予算化ができれば精度が上がり、人の来ない道の駅にはならないと思う。

出村委員 ぜひそういう予算をつけていただきたい。実験的な考え方は、データを取るという意味もあるが、もう一つの有効な使い方は、未来の姿を提示するということである。岐阜市でトランジットモール社会実験をやった際の話ですが、道路空間が車の為の時代は終わりつつある。人の為に関開け放していこうという時代に推移していく中で8車線の道路の6車線くらいを人のための空間にしているのではないかとしたときに、実証実験としてパークライン、公園のように使ったらどうなるか、というのを5日間実施した。やってみて、人が集まってくるのを見ると、将来の姿をイメージできる。

道の駅の現場のあたりを少し整えておいていろいろ試してみると、未来が想像しやすくなる。このやり方は予算がつけば初動のハードルが下がり、よりトライアルがしやすくなる。イベントを定期的に行うことで、気持ちを高めていく効果があり、マーケット調査としても役に立つ。

事務局 他の道の駅とは差別化を図ることも必要と考える。今伺った事を持ち帰って検討したいと思う。

(2) 道の駅導入機能及び規模について

・事務局より資料3の説明を行った。

委員 仕事で毎日国道19号を使っているが、今かまどベースでやっているイベントは休日にやっているものですが、平日に国道19号を使っていると思う事ですが、平日は観光客が少ない。休日と平日では客層が異なるので、注視していくのがいいと思う。

委員 飲食施設、特産品販売で周辺の飲食店と連携とあるが、前向きな飲食店はあるのか。

事務局 具体的に現段階では動いていないが、特にきなあたとの共存共栄、既存の飲食店の活性化を考えながら進めていきたい。

委員 新しいものを作り出すのではなく今ある施設、店舗といかに連携して道の駅に入ってきてもらうかをかまどベースとしてこれから考えていきたい。

事務局 補足説明させていただきます。現在道の駅の整備予定地の用地買収交渉に入っている。道路工事もしているが、来年か再来年には社会実験等が可能な用地の一部確保ができる可能性がある。

会長 今、河川区域でのビジネスができる規制緩和ができていますので、社会実験を通して管理者にアピールできると思う。

出村委員 アンケートにある、コンビニの売上が2億円ないといけない理由は何か。売り上げを年間2億円にするのか、1億円にするのかは重要である。初期投資が大きいと売り上げも多くしなければならない。初期投資を抑えた場合には、サービスを廉価なものにすることもできる。広い水辺空間で大きなイベントを開催すれば、1日で多額の売り上げをあげることも考えられる。どのような稼ぎ方をすれば2億円になるかキャッシュをきちんと計算しておいた方がよい。

事務局 他の道の駅の事例から、道の駅のコンビニとしての売上は2億円が限度だろうという試算をいたしました。

委員 6月にハム工房ができ、カフェをやっている。最初はたくさん来ていただけですが、開店当初と比べると、売り上げは少し落ちてきている。道の駅で考える際に、売り物を地元重視で行くのか、仕入れで行くのかで利益率が違う。どこでも買えるものを置くのか、地域独自のものを置くのか、コンセプトをしっかり

もって計画するのが大切。芝生広場でというのがあったが、維持管理が大変。
先のことを考えて計画する事が大事。

会 長 今回の道の駅は高低差があるので騒音も少ないと思う。川が近く自然豊かな空間になると思う。そういうことはよその差別化にもつながると思う。
きなあは 2 億円以上の売り上げがあるそうですが、もうすこしコンパクトな売り上げでも地元にお金が落ちる仕組みというのは可能なのか教えてほしい。

委 員 きなあはポーノパークで売り上げの 40%以上出る。売り上げが下がると運営は苦しくなる。人件費などが負担になる。施設規模が小さければよいわけではない。

会 長 ビールやグランピングなど、個別のコンテンツをバラバラに考えるのではなく組み合わせる考えたらいいと思う。

委 員 全体のスケジュールが知りたい。コンテンツなど、後戻りができなくなるタイミングはいつか。それに間に合う形で社会実験もしていかなければならない。

事 務 局 施設の設計が 2025 年ごろを予定しているので、2023 年、2024 年に市場調査を具体的にしていきたい。2021 年から実証実験をしながら、コンテンツが経営的に成り立つのか市場的に成り立つのかを確かめながら設計に入っていく流れになる。基本構想の中で「まちとともに育つ道の駅」を掲げているので、開駅後も継続的に広げていくということも考えています。そのあたりも議論していただきたい。

会 長 社会実験も、この数年間は設計にインプットしていくために使える。

出 村 委 員 2021 年から 3 年間は実験ができそうな期間と把握したが、3 年あれば十分。
今、かまどベースでツキイチというプロジェクトがあるので、年に数回は規模の大きいものを仕掛けるのもよい。道の駅を運営していくことを考えると、基本的な財産として活用し、キャッシュを回していく訓練になると思う。

委 員 点ではなく面という考え方が大事。道の駅ができることで壊してはいけない釜戸の風景があると思う。地元の若者の間では、体験型のコンテンツも検討されている。地域風景を崩さない道の駅、地域の価値を高める道の駅がいいと思う。設計の時もコンセプトに沿ったものにしてほしい。

(3) アクセス方法の検討について

・ 事務局より資料 4 の説明を行った。

会 長 3 案提示があるがどういった観点から議論したらいいか。道路等の規格があれば教えてほしい。どれくらいの自由度があるか。

事 務 局 本日は案を提示させていただいた。たたき台として考えていただきたい。
今日は地形処理について確定させたい。道路利用者が迷わないようなアクセ

ス方法を3案出させていただいたのでご意見をいただきたい。いただいた意見について、関係機関と調整しながら、計画に盛り込んでいきたい。

会 長 これまでの議論において、道路との接道は今の地形を生かした形でいこうという前提がある。そこに釜戸の住民の方たちがどういったかたちで入ってくるかを意識して意見をいただきたい。

委 員 アクセスは二つあった方がいい。県道の南側から来る車の交通量があると同時に、スピードを出して下ってくる。道の駅の南側の出入り口と近いと、交通事故が心配である。

事 務 局 公安との協議はまだ行っていない。瑞浪恵那道路と、県道との交差点は将来信号ができてもいい構造規格で国交省が設計をされていると理解している。道路開通と同じタイミングで設置されるかは不明だが、将来的に設置できる設計にはなっている。県道との乗り入れ部分について現段階では未調整である。安全な交差点にするために、どのような構造にするのか、これから関係機関と協議していく。

出 村 委 員 現在、大学で地形データをもとに、細やかなものを描いている。次回お示しできればと考えている。原案では、釜戸の町から入ってくる歩行者動線が圧迫されている。駐車場の確保もあつてのことと思うが、土岐川の水辺のあたりから道の駅の内側に入るようないい場所がつかれないか。段丘の上のできる拠点の施設と、今後のコンテンツの内容にもよるが、橋に近い場所に、道の駅と釜戸のまちをつなぐ場所としてもう1つの拠点を置き、組み合わせることができないか。PARK&WALK、PARK&RIDEの拠点になるような箇所ができることを期待している。駐車場が大部分を占めてはもったいない。A案の北側入口付近は「居場所」として開発した方がよいのではないか。複数の出入り口をすることでアプローチが増えて複雑になり、交通の危険性が増すよりは、B案のように1か所の出入り口を安全に作りこむやり方もある。B案は悪くないと思う。そのうえで北側の橋のたもと付近の使い方を考えていきたい。

段丘は生かしていくべきと考える。段丘から下段に降りる部分については、視覚阻害にならないように、段丘を削ってスロープの位置を下げると、元の地形がよく見えることになる。

どういうコンテンツが育っていくか次第だが、できるだけ駐車場の設計を待っていただきたい。コンテンツがどういう場所で展開されるか描き切った後に駐車場の設計を行い、すり合わせをした方がよい。全体スケジュールとよく連携を考えた方がよい。

会 長 南側の出入り口が交差点から離れて、大回りになっているのはなぜか。

事 務 局 県道から右折で入るためレーンの確保が必要。ほかの敷地のレベルと合わせるといふことと、スロープの長さも必要になる。

- 会 長 さきほどの議論にもあったが、見通しの悪いところに右折レーンを作ることになるので、追突事故も懸念される。南側から入る道も景観面・安全面の工夫の余地がある。
- オブザーバー 前回から地形の改変は少なくした方がよいとの議論があった。一方で浸水区域でもある。上のほうは浸からないとのことだが、下はどの程度なのか。安全面をどのように考えるか
- 事 務 局 下の段については通常の洪水では浸水しない。大きな洪水になると浸水する可能性はある。
- 会 長 岐阜県が公表している浸水想定区域だと、L1だと下段が少し水につく。岐阜県は県下統一で出すために粗い計算を用いている。現在大学で細かいシミュレーションを行っているが、L2でも段丘上はつかからない。河川管理者の岐阜県に説明し、河川協議は必要になる。上の段は、相対的に安全度は高いが、下の段の駐車場は危ない時には閉鎖せざるを得ない。緊急時には直接上の段にアクセスできることが大事。普段の動線と緊急時の動線を設けることについて設計上選択できるのではないか。
- オブザーバー 下の段でも浸水しないということであれば問題ない。上の段と下の段で使い道を分けるなどしたほうがいい。上段は面積も小さいので、どのような規模のものを作るのか。後々大きく変わってくる可能性もある。資料3-2に規模が書いてあるがどのように算出しているか。
- 会 長 治水の安全度について使い方を分けた方がいいのはおっしゃる通り。
- 事 務 局 トイレ、駐車場、休憩所の面積は、前面道路の交通量を元に算出している。芝生広場、備蓄倉庫については、敷地の全体面積から算出している。
- 事 務 局 災害リスクに応じた土地利用については、災害時の利用も考えて検討していきたい。
- 会 長 河川管理者の岐阜県にも協力をいただきたい。
- 各 委 員 3号の議案について、下段については、浸水のリスクがあるが、それを前提とした機能の配置をするということを踏まえ、現状の地形は活かすということで同意いただけるか。
- 各 委 員 同意する。
- 事 務 局 いろいろご意見をいただいたので関係機関と調整し、次回に示したい
- 委 員 自分の店舗では、土日は他県からの客も多いが、平日は地元客も少ない。地元の人に普段利用してもらえる魅力ある施設にしないといけない。
- 委 員 かまどベースにも所属している。これからいろんな部活をやっていこうと思

っている。広報部で新聞を作っている。イベントの司会もやりたいと考えている。農業に関する部活も人を集めてやっていきたい。

委員 コンセプトとして地元の暮らしを支えるのと賑わいをつくりだすのと両方を求めるのは難しいと思う。ファミリー層をターゲットにするといいと思う。

委員 アクセスに関しては、南北2か所にあると良いと思う。用水の関係で、水車が計画されていないのが残念。小さくても良いので、計画してほしい。バーベキューはきなあとの構想の中にもあるので再検討の必要があると思う。ここをどのように利用するかが一番の問題。農地を活用するのが1つの方法。レジャー農園、オーナー制農園のようなものを検討できないか。

会長 上平用水が段丘に沿ってあり、非常にいい水が流れている。この絵には入っていないので何とかしたい。

委員 きなあ瑞浪との違い、差別化をどうするか考えなければならない。道路の件で、安全面や景観は大切だが、近隣住民に対する渋滞等の配慮が気になるので検討してはどうか。

会長 本日の議事は以上となります。

事務局 導入機能やアクセス方法について検討いただき様々な意見をいただきました。素晴らしい道の駅にするため今後とも活発なご意見をお願いします。

以上